

何が価値を創造するのか？

Where the Value of Art Emerges?

【令和2年度企画展】シリーズ

Creative Dialogues with Museum 03

ミュージアムとの創造的対話03

2020.11.28(土) ▶ 12.27(日) ※12/14(月)は休館

会場＝鳥取県立博物館2階 第1～3特別展示室

[倉吉サテライト会場] Aコレクション・ストレージ(倉吉市和田東町121-1 旧松本木工所)
株式会社九十 倉庫(倉吉市秋喜350-23 西倉吉工業団地内 ※土日のみ開場)

開館時間＝午前9時から午後5時まで ◎入館は閉館の30分前まで

観覧料＝600円(前売・20名以上の団体・大学生・70歳以上 400円) ※倉吉サテライト会場は無料

※次の方は無料です[高校生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方、難病患者の方、要介護者等]およびその介護者]

主催＝「創造的対話展」実行委員会(鳥取県立博物館、山陰中央テレビジョン放送株式会社)

協賛＝日本通運、株式会社モリックスジャパン、株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社、TIC鳥取県情報センター

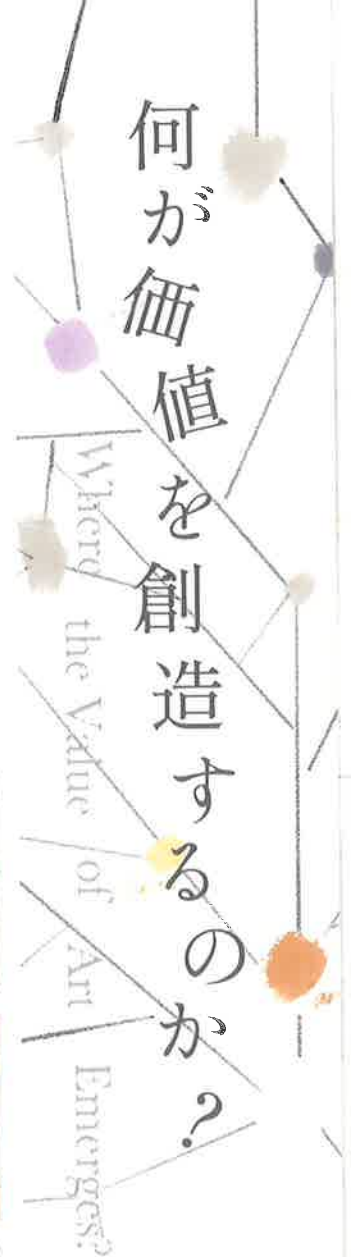
協力＝株式会社九十、倉吉通運株式会社、KENJI TAKI GALLERY

ミュージアムとの創造的対話03

鳥取県立博物館は、昭和47年の開館以来今日まで、調査研究に基づく資料の収集や展覧会及び教育普及プログラムを通して、文化芸術を保存し、次世代へ継承していくための活動を行ってきました。これをさらに広げ、これからのミュージアムの可能性を開く試みとして、2017年にシリーズ展「ミュージアムとの創造的対話」を開始しました。本シリーズでは、ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで、思考を促し、人やモノ場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探ることを目的としています。

第3回目の今回は、ある個人コレクターのコレクションと、收藏アーティストによる新旧作の展示を通じて、美術作品における「価値」とは何か、それはいつどのように作られるのかについて考察します。「アーティスト」たちは、自らのアイデアや知見を頼りに、様々な素材を用いて作品を制作し、新しい「価値」を提示する存在です。一方、「ミュージアム／美術館」は、作品を展示したり收藏したりすることで、歴史的あるいは美学的な価値を認め、その作品の価値を定め、時には高める役割を果たします。「コレクター」もまた、作品に何らかの価値を見出し蒐集する点でミュージアムの姿と重なりますが、その動機や基準、目的は様々です。とりわけ同時代の作品をコレクションすることは、時代を先駆ける価値づけの行為とも言え、あるときは作品の理解者として、またあるときは作家の経済活動を支えるパトロンとして、大きな社会的役割を担ってきました。本展で紹介する「Aコレクション」は、1980年代から日本の現代アートを中心に収集が始まり、現在では数百点にのぼります。特徴的なのは、数十年にわたって特定の作家の活動を観察し続け、作品購入を通じた支援だけでなく、作家活動のアーカイブやプロジェクトへの参画まで活動を広げていることです。

本展では、この秘蔵のコレクションを展示し、約30年にわたる収集活動の成果を公開することで、1980年代から2010年代にかけての日本の現代美術の歩みの一側面を紹介し、同時に、「コレクション」という集合体をめぐる現場をアーティストやコレクター、関係者そして鑑賞者とともに作品に寄り添いながら検証し、その可能性と課題について考える契機とします。



1.原田典之「新島12」インスタレーション(表以上の芸術祭2012、新島) Photo by 村井勇 2.村岡三郎「ボクシング(空中停止)」1977写真 3.藤原江里子「Untitled」2018 4.ルネスタルノ「カンヴァス」Photo by グラフィック 藤田若希 4.黒川弘毅「Corem」1984-85 ブロンズ Photo by 山本真 5.大塚泰子「水の彫刻」2001 プラスチック Photo by Tetsuo Ito, Courtesy of Kenji Taki Gallery 6.渡辺英司「星の名前」1997 油彩、サイズ Photo by Hiroama Narita, Courtesy of Kenji Taki Gallery 7.小松正久「写生」(1993.4.16) 1993 油彩「カンヴァス」 8.真川寛彰「トトリ文化(A)プロジェクト」2020年12月15日制作、中森祥三(三代目)中森裕彰(四代目)にて

【関連プログラム】
■オープニング・アーティスト・トーク
 11月28日(土)14:00-
 鳥取県立博物館 特別展示室 | 定員なし | 要観覧料

■トークイベント「文化芸術と価値創造」
 12月5日(土)14:00-15:30
 Aコレクション・ストレージ | 定員 20名 | 聴講無料
 ●ゲスト: 池田修(NPO法人BankART 1929代表) PHスタジオ、BankART1929など、池田氏が手がけてきた文化芸術創造の実験的な取り組みや、原口典之をはじめとするアーティストとの協働プロジェクトについてお話しいたします。

■レクチャー「作家亡き後に作品を再現すること」
 12月12日(土)14:00-15:30
 鳥取県立博物館 講堂 | 定員70名 | 聴講無料
 ●講師: 尾崎信一郎(鳥取県立博物館副館長)
 場所の固有性を重視したインスタレーション作品の再設置についての事例とその課題について解説します。

■特別講演会「コレクションとアーカイブー松澤宥、村岡三郎、原口典之を例に」
 12月19日(土)14:00-15:30
 鳥取県立博物館 講堂 | 定員70名 | 聴講無料
 ●講師: 松本透(長野県信濃美術館館長)
 現代美術作品のコレクションとアーカイブの現状と課題について、本展出品作家の松澤宥、村岡三郎、原口典之の作品を例にお話しいたします。

■学芸員と巡るギャラリー・ツアー
 12月26日(土)10:30-16:30
 鳥取県立博物館・倉吉サテライト会場 | 定員なし | 要観覧料(倉吉サテライト会場のみ参加の方は無料)
 本展担当学芸員が全ての会場を巡りながら、作品解説を行います。
 [タイムスケジュール]
 10:30-12:00 鳥取県立博物館
 15:00-15:30 倉吉サテライト会場1: 株式会社丸十 倉庫
 16:00-16:30 倉吉サテライト会場2: Aコレクション・ストレージ
 ※各会場間は各自で移動してください。
 ※定員制プログラムは全て当日先着順、申込不要。



交通のご案内

◎ JR鳥取駅からバスで
 a. 100円バス「くる梨(緑コース)」で「①仁風閣・県立博物館前」下車すぐ
 b. ループ麒麟獅子(土・日・祝日のみ)で「③鳥取城跡」下車すぐ
 c. 砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車約400m
 d. 市内回り岩倉、中河原方面行「わらべ館前」下車約600m

◎ JR鳥取駅からタクシーで... 約10分
 ◎ 鳥取空港から... 鳥取駅行連絡バスで「西町」下車約400m
 ◎ お車で... 鳥取自動車道・鳥取ICより約15分

◎ 当館駐車場40台駐車可能 ※なるべく公共交通機関をご利用ください

[Aコレクション・ストレージ] [株式会社丸十 倉庫] ※土日のみ開場
 ◎ JR倉吉駅からタクシーで約10分 ◎ JR倉吉駅からタクシーで約15分
 ◎ 倉吉道路・倉吉ICより約1km ◎ 倉吉道路・倉吉ICより約1km



鳥取県立博物館
 TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM
 〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目224
 TEL.0857-26-8042 FAX.0857-26-8041
<https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/> E-mail: hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



いっしょにみてみて、もくようび。
 展示室に小さなお子様と一緒に来館し、気兼ねなく作品鑑賞していただくための時間として、会期中の木曜日の午前中を「子どもと一緒にの鑑賞優先時間」としています。ベビーカーを押してぜひお越しください。

次回展覧会
 「生誕110年 岡本太郎ーマサから東京へ」
 2021年2月11日(水・祝)～3月21日(日)